

**製品名: Rsk 2/MAPKAP キナーゼ 1b ウサギモノクローナル抗体****カタログ番号: AMRe87186**

研究使用のみ

**概要**

説明	組換えウサギモノクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,IHC,FC,IP
反応性	ヒト、マウス、ラット
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	モノクローナル
形態	液体
濃度	-
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50mM トリスグリシン（pH 7.4）、0.15M NaCl、40%グリセロール、0.01%アジ化ナトリウム、0.05%保護タンパク質を含む溶液で提供されます。受領日から12ヶ月間安定です。
精製	アフィニティー精製

**応用**

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,IHC 1:50-1:200,FC 1:20-1:100,IP 1:20-1:50
分子量	Calculated MW:84 kDa; Observed MW:84 kDa

**抗原情報**

遺伝子名	Rsk 2/MAPKAP Kinase 1b
別名	CLS; RSK; HU-3; RSK2; MRX19; ISPK-1; p90-RSK2; pp90RSK2; MAPKAPK1B; S6K-alpha3
遺伝子 ID	6197
SwissProt ID	P51812
免疫原	ヒト Rsk 2/MAPKAP キナーゼ 1b の合成ペプチド

**背景**

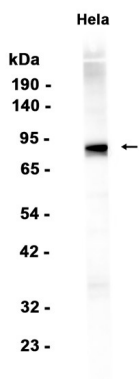
この遺伝子は、セリン/スレオニンキナーゼの RSK（リボソーム S6 キナーゼ）ファミリーのメンバーをコードしています。このキ

ナーゼは2つの異なるキナーゼ触媒ドメインを有し、マイトジェン活性化キナーゼ (MAPK) シグナル伝達経路のメンバーを含む様々な基質をリン酸化します。このタンパク質の活性は、細胞の増殖と分化の制御に関与していることが示唆されています。この遺伝子の変異は、コフィン・ローリー症候群 (CLS) と関連付けられています。[RefSeq 提供、2008年7月]

## 研究分野

-

## 画像データ



db3660 を 1:1000 で使用して HeLa 細胞抽出物をウェスタン ブロット分析しました。